

令和4年3月29日

ACCU 作成

//REPORT//

令和3年度ユネスコスクールオンライン意見交換会

3/22 開催 第8回

「持続可能な社会創出に向けた文化的多様性の学び
～コンセンサスゲームを通じて価値の多様性を体験しよう～」



ユネスコスクール事務局では、令和2年度より、ユネスコスクールオンライン意見交換会を1～2か月に1回のペースで実施しています。今年度の締めくりとなる第8回目は玉川大学ユネスコクラブの皆さまを迎え、「持続可能な社会創出に向けた文化的多様性の学び～コンセンサスゲームを通じて価値の多様性を体験しよう～」というテーマで、11名の参加者と対話の場をもちました。なお、本レポートに記載されている内容は3月22日時点の発言者の見解によるものです。

■プログラム

開催日時:2022年3月22日(火) 16:00～17:00

時間	内容	備考
16:00	オープニング 趣旨説明 ACCU	ACCU 教育協力部 部長 大安 喜一
16:05	文化的多様性の学びに向けたコンセンサスゲームの趣旨説明 玉川大学教育学部 小林亮氏	
16:10	グループに分かれてコンセンサスゲームの実践 (ブレイクアウトルーム)	※各グループファシリテーター:玉川大学ユネスコクラブ
16:40	全体会 各グループからの発表と意見交換	
16:55	総括コメント 宮城教育大学名誉教授 見上一幸氏	
17:00	クロージング	※写真撮影

■ コンセンサスゲームについて

玉川大学教育学部 教授 小林亮氏、玉川大学ユネスコクラブの皆さまより、コンセンサスゲームについてご紹介いただきました。以下、概要です。

【小林亮氏】

「コンセンサスゲーム」に関して説明します。今回は「持続可能な社会創出に向けた文化的多様性の学びーコンセンサスゲームを通じて価値の多様性を体験しようー」というテーマで準備しました。

SDGsの達成に向け、ESDの推進拠点であるユネスコスクールは教育貢献が求められています。SDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」を達成するというのは、ユネスコスクールの教育活動を考えていく上でも大変重要ですが、とりわけターゲット4.7には色々な変容的教育のテーマが盛り込まれています。その中で「平和の文化と非暴力の推進(Culture of peace and non-violence)」と「文化的多様性の尊重(Respect for cultural diversity)」が非常に重要な項目として列挙されています。ユネスコ本部が2019年に発行した「ユネスコスクール・メンバーズガイド」にも、「平和と非暴力の文化」がユネスコスクールの重点学習項目として挙げられています。同時に、「文化的多様性の尊重」も、SDGsおよびユネスコスクールの両方で指導原則として重視されています。しかし、この両者は時に具体的な状況において矛盾を露呈することがあります。人間は、自分とは異なる価値観、あるいは正義感に直面したときに、往々にして「平和の文化」とは異なる行動傾向を示しがちである、という問題点があります。だからこそ世界で色々な問題が起きているわけです。

暴力的傾向性の危険というのは、自分と異なる価値観に不信感や脅威を感じると、人間はとかく次のような暴力的傾向に走りがちになる可能性があることです。個人レベルでいうと、例えばヘイトスピーチや差別的行動があります。ブラック・ライヴズ・マター(Black Lives Matter)もそうですし、日本でもこうしたことが起きます。集団レベルでは、今ユネスコが非常に問題視している暴力的過激主義(Violent Extremism)やテロが世界各地で起きています。さらに国家レベルになると、今まさにウクライナで起きているような、軍事侵攻・戦争が起きてしまいます。ユネスコはいずれに対しても「平和と非暴力の文化」に反するものであり、防止しなければならないとして、教育局が中心となってそのための教育プロジェクトを精力的に開発・推進しています。例えば近年ではUNODC(国連薬物犯罪事務所)との「暴力的過激主義と闘うプロジェクト」の共同開発などがそうです。

ここから合意形成の重要性につなげたいのですが、やはり個人レベルでも、集団・国家レベルでも、自分とは異なる価値観に対峙した時に、暴力的傾向に流されず、「平和と非暴力の文化」を維持するために必要なのは、異なる意見の持ち主の間でいかにして「合意形成」を達成するかという教育課題だと思えます。したがって「合意形成」のプロセスを学ぶことは、ユネスコスクールが重視する「平和と非暴力の文化」へのスキル(21世紀型のメタ認知のスキル)を身につけるための重要な方法論になると思えます。

この前提に基づき、直近の問題であるロシアのウクライナ軍事侵攻という、人類の持続可能性や平和を脅かすような危機的な時事問題に関連したテーマを取り上げ、コンセンサスゲームを行いたいと思えます。これを通じ、難しい価値判断が迫られた際の合意形成のプロセスを相互に体験学習して

令和 4 年 3 月 29 日

ACCU 作成

いただき、今後のユネスコスクールの学習課題を開発していく際の一つの参考資料にいただければと願っております。

【玉川大学ユネスコクラブ】

コンセンサスゲームとは、ある課題について、チーム全体で話し合い、コンセンサス(合意)を形成するゲームです。本日のコンセンサスゲームの流れは、問題の説明を聞き、問題についてまず一人で考え、次にグループ内で自分自身の考えを共有し、ディスカッションをします。その後、各グループで決めた順位や合意に至った経緯など、各グループ 1 分で全体に共有していただきます。最後に、このコンセンサスゲームについてまとめます。

グループディスカッションでは、グループで一番誕生日が早い人がディスカッション内容の記録と発表をしてください。留意点としては、グループディスカッションでは特定の人が司会者とならないようにすること、全員がディスカッションに参加するようにすることをお願いします。また、できるだけ全員が納得のいくような順位をつけるようにしてください。

続いて課題の説明です。

本日はロシアとウクライナの事例を扱います。この 2 か国の歴史的背景として、両国とも元々は近い親戚の国であるということ、起源となる国が同じであり、元々同じような民族でした。ウクライナは常にロシアの支配下に置かれてきたことから、独立志向が強く、自由なウクライナを目指そうというような考えを持っています。一方、ロシア側からすると、ウクライナをアメリカ・NATO 側に取られたくない、ロシア側につけておきたいというような考え方があり、この 2 つの意見がぶつかって現在のようなことが起きています。

そして、2 月 24 日にロシアのプーチン政権は「ウクライナ国内で抑圧されているロシア系住民を救うため」として、ウクライナに軍事侵攻を開始しました。経緯を踏まえ、2022 年 3 月 3 日、北京パラリンピックの開幕前日に、ロシアとベラルーシの選手の参加を認めないという決定が下されました。今日はこのことについて皆さんと合意形成を図っていきたいと思います。

ロシア・ベラルーシの選手の出場停止について、8 つの価値基準を用意したので、皆さんが重視すべきだと思う判断基準を順位づけしてください。

まず A の意見は、「ウクライナの人の思い」です。穏便だった日常が壊されたり、住む家が失われ、家族と愛する故郷を離れたりしなければならない現状に追い込まれています。銃撃の音を聞きながらいつ自分や家族の命が奪われるかわからない状態で今も毎日過ごしています。ウクライナの人からすると、このような状況に追い込んだ侵攻国は国際大会に参加する権利はないというような主張をしています。ロシアに対してパラリンピックは出場すべきでないという意見の一つです。

次にこれに反した B の意見、「ロシア・ベラルーシの選手の思い」です。選手たちは北京パラリンピック大会に人生をかけて努力をしてきたところから、選手や関係者の思いが国の動きによって踏みにじられて良いものなのかというのが議論の対象になります。

C は「スポーツ大会の意義」です。オリンピックの一つの理念として、オリンピズムがありますが、これ

令和4年3月29日

ACCU 作成

は、スポーツは平和でよりよい世界の実現に貢献するものだ、と主張しています。オリンピックの根本原則では、スポーツをすることは人権なのだから、いかなる種類の差別も受けてはいけない、スポーツ団体は政治的に中立でなければならない、スポーツをする権利は政治、国、社会的出身などの理由で差別を受けることがあってはならない、というように述べられています。今回のロシア・ベラルーシの選手の出場停止はこのすべてのオリンピズムの意義に反している、スポーツをする人権を侵害しているのではないと言えます。

D は、「選手の安全を考慮して」です。トーマス・バッハ会長は、「この出場停止に対して戦争という非常に大きな状況のもとで政治とスポーツが混在してはならないということはわかっているが、それは不可能だ」と主張し、ロシア・ベラルーシの選手の安全性を危惧して今回の決断をしたと述べています。今回の侵攻によって反ロシア、反ベラルーシの感情が国際的に高まっていることから安全を考慮して出場停止にしたということです。

続いて E は「国際社会の道義」です。「ロシアの選手が参加するならば、私たちは参加を辞退する」というような国々が相次いで辞退を宣言しました。ロシア選手は悪くないという意見もありますが、ロシア選手に罪はないが、無差別に殺されたウクライナの国民にはもっと罪がないのでは、というような主張も見受けられます。他国の選手が出場を辞退するということは、パラリンピック自体が成り立たなくなってしまうということも価値基準として考慮していく必要があります。

次に F ですが、「プーチン政権を支持しているロシア人の責任」ということで、プーチン政権は国民約 7 割の支持を維持しており、ロシア国民はプーチン政権を選んだのだから、プーチン政権に対する批判はロシア人も受けなければならない、という考え方であり、こちらも価値基準に入ります。

続いて G は、「情報統制をされるロシア国民」です。プーチン政権の支持率の背景として、現在、プーチン政権に批判的な情報を流したメディアは業務停止、閉鎖へ追い込まれている状況にあります。また、SNS などの情報はフェイクニュースだと報道され、閲覧規制が強化されています。ロシアの子ども向け教育番組では「私たちはウクライナを平和にしたいとウクライナを助けている」というような報道をしています。ロシア軍の特別軍事作戦に賛成だとか、原発を攻撃したというのはフェイクニュースだ、というようなモスクワ市民の本音を語るような記事もありました。ロシア国民はプロパガンダや情報統制によってこのような意見を持っていたり、プーチン政権の支持率につながっていたりするのだから、国と国民は分けなければならない、という価値基準もあります。

最後の価値基準 H は、『『オリンピック休戦決議』の違反』です。オリンピック・パラリンピック期間中はすべての争いや戦争を休戦すること、ということが国連総会で決議されていますが、2月24日のロシア軍の侵攻はこの期間中に行われたため、この決議に違反したことになります。ロシアの違反はこれで3回目ということで、IOCはこの決議違反を強く非難するという結論に至っています。

また、以上の8つに加えて他に重視すべき価値基準をお持ちの方はぜひグループ内で共有してください。

それではまず2分間でロシア・ベラルーシの選手の出場停止に賛成または反対か、自分の中で決めていただきます。その後、決断の背景となる8つの価値基準に順位をつけてください。

令和4年3月29日

ACCU作成

続いてグループディスカッションに入ります。20分間の間に、まず自分の価値基準を発表します。全員の価値基準を聞いた後に、どの基準が一番大事かグループのメンバーで合意形成を図り、一つに決めてください。グループ内で賛成か反対かも決めてください。

■ 全体会

グループディスカッションにて、参加者同士でコンセンサスゲームを行いました。以下、話し合われた主な内容です。

【1班】

順位はすべて決められていませんが、結論としてはロシア・ベラルーシの選手の出場停止については反対です。反対ではありませんが、ウクライナの人たちの気持ちもわかる、という意見です。

1番目の前に、2番目に重要だと思った価値を発表します。それは、G「情報統制をされているロシア国民」です。ここから情報格差の話になり、ロシア内でも反発したり、色々な意見を持っている人がいたりしますが、正しい情報を得られていない人も一方、世界や、日本にいる私たちも「ウクライナの人たちがかわいそう」と反ロシアに誘導されるなど情報格差があるのかもしれないので、そこを見極めていく必要があると話しました。

また、3番目に重要な視点として新たな視点が出ました。オリンピックの組織やルールの作り方に問題があるのではないかというものです。ルールを現代社会に合わせて作り直す、例えば国から選手に支援金を出す形にすると圧力がかかってしまうため、資金を集めて組織として支援するなどして政治と独立させる、などというようなルールの見直し、ということも3つ目の価値基準として選びました。

そして私たちが一番大事だと思ったのは、C「スポーツ大会の意義」で、やはりウクライナの人たちの気持ちはわかるが、政治と離して考えるべきという結論になりました。

【2班】

価値基準の順番を決めきれませんでした。F「プーチン大統領を選んだロシア国民の責任」については、情報統制もあるので国民を非難するということに関しては、共通して価値基準の順位は低いのではないかということになりました。そのうえで、ロシア・ベラルーシの選手の思いやウクライナの人々の思いというのを重視しながらも、選手の出場に関しては賛成だったり反対だったりそれぞれ意見があったり、意見が揺らぐ人もいたり、時間が足りず結論が出ませんでした。これはこれでコンセンサスゲームの難しさでもあり、良さでもあり、ということを感じました。

【3班】

すべての順位決めは時間的に難しかったので、賛成か反対かと、その根拠となる一番の価値基準を全員で共有しました。その結果、賛成が1人、反対が2人となりました。反対の理由としてはG「情報統制をされているロシア国民」を挙げ、情報を統制されているということは、大統領を選ぶ際もすべての情報を受けたうえでの正しい判断ができていないという理由と、B「ロシア・ベラルーシの選手」の思

令和4年3月29日

ACCU 作成

い・努力」や C「スポーツ大会の意義」があるので、国と個人は違う、という理由が挙げられました。

賛成の方の意見としては、あくまでも国として参加しているので、スポーツと政治は引き離せない、という考え方で D「ロシア・ベラルーシの選手の安全の考慮」が理由として挙げられました。

最終的には、置かれている立場によって、優先する価値が変わるということが意見として出され、例えばスポーツを愛する立場からすると、国と個人を切り離しての出場停止に対して反対の意見になる、ということを実感しました。

【4 班】

A「日常や命を奪われたウクライナの人の思い」が一番尊重されるべきという立場に立って出場停止に賛成、C「スポーツ大会の意義」、やはりスポーツは政治から独立するべきだという考えで反対、そして E「国際社会の道義」を重視するが、この国際社会の道義が人種や宗教などでスポーツに差別をつけるべきではないという道義と、一方で平和を重んじなければならないというオリンピックの精神も含めた道義と 2 つの道義が混在しているので非常に悩ましい問題ではあるが賛成、という意見がありました。

また、考えるべきファクターのもう一つの要素としては各国がパラリンピックの出場を拒否した、という面があり、それによりパラリンピックは成立しないという事態が起こることはやはりオリンピック・パラリンピックの精神に反するという面もあるのではないかと、いうところから、反対意見から妥協の産物として賛成ということもやむを得ないのではないかと話になりました。

ただ、このプロセスの中で一つ重要なことは、はたしてコンセンサスを作ることに意味があるのだろうか、多様な意見があるということを尊重することがむしろ ESD の考え方ではないかという意見も出ました。そのような中で、多様な意見があることを尊重しつつ、最終的にはどこかで決断をしなければならない、その決断をどうするか議論をしなければならないのであって、コンセンサスを作る、みんなが合意するということに重きを置くということは必ずしも求めるものではないのではないかと議論もありました。

【玉川大学ユネスコクラブによるまとめ】

コンセンサスゲームは民主主義における意思決定の訓練になります。時間が短かったということもありますが、色々な意見がある中で合意形成というのは難しいと感じたと思います。民主主義は色々な考え方や立場がありつつも、みんなで一つのやり方を作っていかなければならない、合意を得て関係や社会を作っていかなければならないという部分もあります。コンセンサスを得るとことは非常に難しいことですが、まずは自分と相手の意見や考え方の違いを知ることが大切なのではないでしょうか。自分の意見をはっきり言って相手に聞いてもらうことで、自分は居て良いんだな、相手に聞いてもらったな、と思え、自分も社会に関わっているという実感が得られます。一人ひとりの考え方や背景は、価値観や目的、情報量や自分の体験や知識によって様々です。だからこそ目指すところを一つに統一すると合意形成がしやすいということも伝えたいと思います。

日本でも起きている人権侵害ですが、現在のロシアとウクライナの国際情勢においても日本でロシ

令和4年3月29日

ACCU 作成

ア人への誹謗中傷や差別的な書き込み、学校ではロシア人児童生徒へのいじめ被害が起きています。日本に関係ない話ではありませんので、こういうことにもきちんと目を向けたいと思います。ロシア人だから悪いというような考え方は決して正しくなく、ロシア国内でおびえながらも平和を主張するロシア人もたくさんいますし、国と人とは必ずしも一致しているわけではないということを強く心に残していただければと思います。

■ コメント

玉川大学ユネスコクラブのご発表を受け、見上一幸氏よりコメントをいただきました。以下、概要です。

非常に難しい議論だったので、私も悩みながらコンセンサスゲームを楽しませていただきました。まとめにはなりません、4つの点が気になりました。

1つは真実やエビデンスというのはいったい何だろうか、ということです。私自身は自然科学の研究者ですので、日常扱っていることです。が、非常に判断が難しい結果というのがあります。そのような時はどうするかというと、統計処理をし、有意差があるとかないとかということから自分の説を持ち出します。自信がある説の時は、例えばそれに99%の信頼限界という厳しい条件を課し、その説を力説します。一方自信のないときは、90%とかもう少し下げて、なんとなく起こりそうだと説明します。つまり自然科学でも結構そのあたりは微妙なところがあります。私たちがそういうところで一番根拠にするのはどういうことかということ、別の人が同じような条件で同じ結論を得たかどうかという再現性ですので、そのような再現性が出るまでは安心できません。以上のようなことから、エビデンスというものが気になりました。

2つ目は、色々な政治体制がありますが、頭に浮かんだのが法治主義という言葉と、徳治主義という言葉です。徳治主義というのは、徳のある人が統治するというものです。例えば孔子の儒教の考え方がそうです。これに近い国もあると思います。みんなが徳があると思っている人が統治する、ということですね。しかし世界は今、法治主義です。法律を決めて、みんなでルールを作って一緒にやりましょう、そうすれば多少の価値観の違いも乗り越えられるだろう。そういうことからすると、オリンピックのルールの問題が気になりましたが、もう少しきちんと作らないと政治とは無関係と言いながら、どんどん政治が持ち込まれてしまいます。本当の意味でのアスリートたちが競う場になっているかというのが気になりました。

3つ目は、戦争での殺戮です。これが一人の人でも普通の状態で殺してしまったら大変なことなのに、戦争の場合はそういうことにされないという矛盾。これはやはりもう少し我々が真剣に考えなければならぬ問題だと感じました。

最後、4つ目は情報です。我々が聞いて明らかにフェイクと思われるようなことを真実と言っているところもあれば、あまり信用できない状況も結構あります。しかし日本でそう思っている私たちがいつも正しい情報だけを目にしているだろうか、耳にしているだろうかということ、少し怪しいような気がします。政治家の誰々さんがこういうことを言った、という時に、映像が流れているものの、資料として無関係な場面が流れている。その場面に戦争の場面を映すか、演説の場面を映すか、あるいは楽しい場面を映すかによって、我々は受け取る印象がまったく違ってきます。

令和4年3月29日

ACCU 作成

ということで、今私たちがユネスコスクールで大事にしているクリティカルシンキングというのは、これからますます大事だな、と感じました。

以上4つが私の印象ですが、私の言っていることも間違いかもしれません。参考にいただければと思います。

※月に一度、ユネスコスクールオンライン意見交換会を開催しております。お申込み方法などの詳細は、[ユネスコスクール公式ウェブサイト](#)内「最新情報」、[ユネスコスクール公式 Facebook](#)にも掲載しております。ぜひご参加ください！

